

医療の歴史（性・内視鏡・がん）

科目責任者：釜井隆男（泌尿器科学）

I. 前文

医療の常識は時代時代で異なっている。それは、単に技術の進歩に留まらない。現在においては、人間社会の多様化（共生社会や情報化社会の発達など）も加わり、近い将来、医療の常識はさらに変わっていくであろう。今回、3つのテーマで医療の変化を紹介する。

II. 受入可能人数

10人

III. 担当教員

別納弘法（泌尿器科学）

IV. 学習内容

動画を含めたスライドでの説明が中心になる座学である。また、過去・現在の常識、そして今後、さらに変わるであろう医療について、討論も踏まえながら学習を進めていく。

<授業内容>

- 第1週 イントロダクション：（性・内視鏡・がん）における医療のかかわり
- 第2週 時代時代における性認識、今日のジェンダー・ダイバーシティの考え方
- 第3週 内視鏡の歴史
- 第4週 がん診断の変遷
- 第5週 今後のがん治療に期待できること
- 第6週 期末試験

V. 学修の到達目標

履修により、今後、社会で活躍が期待される学生全般に対して、現在における医療の概念・問題点および今後の医療に期待できることを重点的に解説する。具体的には、毎回の授業終盤で、これらを強調する。最終授業ではテストを行い、その結果を元に学生および担当教官で、学修した内容を再確認する。

VI. 成績評価の方法・基準

最終日に全授業の内容について、記述試験（15分程度）を行う。アクティブラーニングとして毎回の授業終盤にディスカッションを行い、評価の対象とします。成績の内訳は記述試験（70%）、毎回のディスカッションの参加度（30%）。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

授業では教科書は使用しない。ただし、授業で用いる教材として、関連プリントを随時配布する。

VIII. 質問への対応方法

e-mail（別納弘法：hirobeta@dokkyomed.ac.jp）や電話（泌尿器科学：0282-87-2162）にて応じる。

IX. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

授業の前後に関連プリントを随時配布する。これにより10分程で事前・事後の学習を行うことができる。

X. コアカリ記号・番号

S0-04-02：ジェンダーと医療，PS-02-08-05：消化器系，PS-02-09-05：腎・尿路系，PS-03-06：放射線の生体影響と適切な利用，放射線障害

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

試験結果を分析し，一授業あたりの理解度を分析する。理解度が低いと思われる内容については，必要に応じて学生へ周知，また授業内容の修正を行う。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎